

11月・12月の管理ポイント

冬場は低温・乾燥など様々なストレスが芝生に掛かっていますが、ペントグラスの生育が低下しているためダメージの蓄積が目立ちません。ストレスを軽減するためにも適切な土壤水分管理が重要です。



土壤水分環境を整えましょう

レボ (REVO)

冬場は降雨やく灌水が減り土壤中の水分が少なくなりがちです。おまけに空気が乾燥しているため、土壤の乾燥が思っている以上に早進んでしまいます。冬季の乾燥害は目立ちにくく軽視されがちですが、春の立ち上がりに大きな影響を与えるだけでなく夏のドライスポット発生の原因にもなります。界面活性剤を処理することで、適切な土壤水分を保持し続けやすくなります。

使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回



乾燥・過湿から
グリーンを守りましょう

プライマーセレクト

土壤全体に水を行き渡らせ適度な水分を保ちつつ、余分な水の排出を促すことで、ペントグラスが生育しやすい土壤水分状態を維持します。レボより土壤表層の水分を少し高めに保ちます。

使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回



ドライの予防と治療

ハイドレーター-G

ドライスポットの予防と治療にご使用下さい。土壤の乾燥が気になる部分に直播出来ます。1mm程度の粒剤なので、粉が舞いにくく散布しやすい剤です。安全性が高いので安心してご使用頂けます。花壇や鉢植えにもご使用頂けます。

グリーン・ティー 使用量：ドライスポットの治療 20g/m²/週 予防10g/m²/月

バンカー周り・クラブハウス周辺の芝地等 使用量：10g/m²/月

花壇・鉢植え・プランター 使用量：約10Lのプランターに小さじ1/2/月



タンクミックスにお勧め

グリーンシナジー

グリーンシナジーは根圏土壤の隅々まで水を届ける働きがあるので、肥料、ミネラル、糖、アミノ酸などと混用すれば、水と一緒に養分も根圏の隅々まで行き渡ります。与えた養分を無駄なくペントに届けるには、グリーンシナジーのご使用がお勧めです。経済的な資材なので、散布の度にご使用頂けます。

使用量：1~2ml/m²/月 散布水量：100ml~1ℓ/m² 使用方法：資材の散布時にタンクミックス



サッチの除去
土壤環境の健全化

サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。農薬との混用も可能です。

使用量：グリーン0.2ml/m² ラフ・FW・Tee0.1~0.2ml/m² 散布水量0.2~0.5ℓ/m²



冬季のサッチの除去
土壤微生物の健全化

サッチ・マネージャーW ウィンター

本剤は自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力があり、低い温度でも活性の高い有用菌を選抜した微生物資材です。低温期のサッチ分解能力が高く、春期の気温が上がる時期までにゆっくりとサッチを分解します。酵素剤のサッチクリーナーと、目的ごとに使い分けただいただくことがおすすめです。

使用量：グリーン0.25~0.5g/m² 散布水量0.2~0.5ℓ/m²



貯蔵糖類を貯えましょう

グリーンメカ

生育期の11月は糖類の消費が多くなります。十分施肥しても日照不足で光合成が十分に行えない場合、糖類の消費が追い付かなくなります。足りない消費分を補い、さらに冬の貯蔵分も十分蓄えるため、グリーンメカを処理して糖類を十分補給しましょう。貯蔵糖類を十分に蓄えた芝は、耐寒性耐凍性が向上し、来春の生育が良好になります。

使用量：2~10ml/m² 散布水量：1ℓ/m²



自然な色調の着色剤

カラーメイト F-20

カラーメイトF-20は、従来品に比べ、季節感を重視した落ち着きのある自然な色調(ダークグリーン)に仕上がる着色剤です。物理性(固着性、速乾性、色持ち、色乗りetc)や安全性にも優れています。お求めやすい価格なので、フェアウェイなど広範囲でもご使用いただけます。

使用量：50~100倍 100~200ml/m²散布



病害予防

グリーンオキシラン水和剤

グリーンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。更新作業後の保護殺菌としてお勧めです。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。

今年最後の殺菌剤散布は幅広い病害に効くグリーンオキシラン！菌密度を下げておきましょう。

使用量：ペントグラス 希釈倍率300-500倍 1-2ℓ散布/m² 日本芝 希釈倍率500倍 1-2ℓ散布/m²

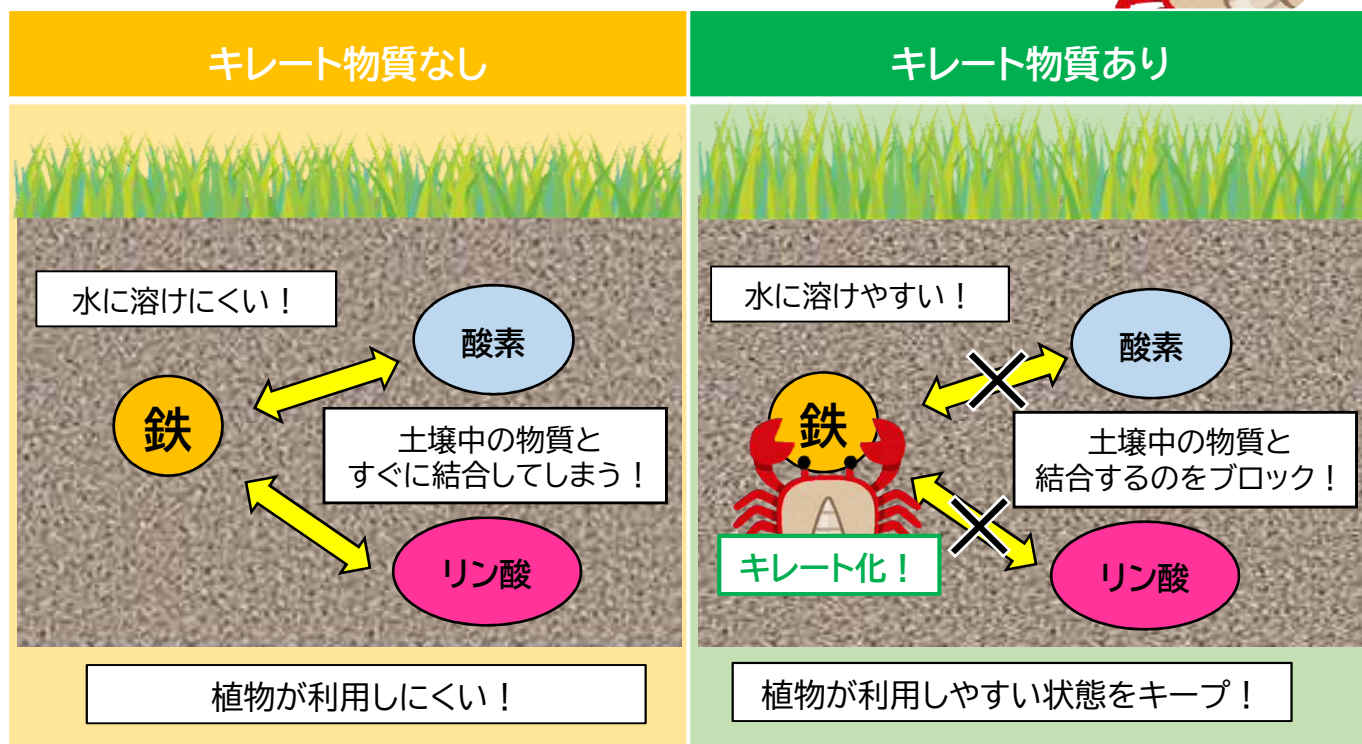
気温が下がり晩秋施肥を行う時期になってきました。今回は肥料分である微量元素の中でも特に重要な、鉄の吸収に関わりの深いキレート化という現象について紹介します。

キレート化とは？

有機酸やアミノ酸などの物質が金属イオンを挟み込むように結合すること。『挟み込む様子が、カニがハサミでつかんでいる様子に似ていることからキレート(ギリシャ語でカニのハサミの意味)といわれる』

キレート化することで

- ・ 溶解性(水への溶けやすさ)向上
- ・ 植物に吸収されにくい形の肥料分等を吸収されやすい形に変える
- ・ 植物に吸収されやすい形を保持する
- ・ 植物にとって有害な物質を無害な形に変える 等の効果が得られます。



微量元素としての鉄

呼吸や光合成に関与する。

葉緑素の材料として不可欠な成分であり、不足すると葉の色が白くなってしまふ。

土壌中における鉄の性質

非常に水に溶けにくい酸化鉄の状態が存在することが多く、植物が吸収しにくい。

可溶化した鉄も他の物質と反応しやすく、リン酸と結合したリン酸鉄なども非常に水に溶けにくい。

→キレート化することで植物に吸収されやすい状態で土壌中に保持される。

キレート効果のある物質ではキレート剤のEDTAやDTPA、有機酸のクエン酸などが使われています。

アミノ酸ではイネ科植物の根から分泌されるムギ根酸なども高いキレート効果を持つ物質として知られています。

晩秋施肥によって芝生の貯蔵養分を増加させることにより、耐寒性・耐凍性や春の立ち上がりの向上が期待できます。さらに微量元素をしっかりと吸収することで、生理機能も向上します。

不足している養分を効率的に補給し、冬のストレスに備えましょう！！